

東堂陽一 議会便り 第15号(2-8)

平成19年 4月 9日発行

今号の内容

1. きれいな水を守るために
一学年がたったの一人
2. 駅前再開発ビル
会議乱立
3. 2回目のトップバッター
4. 写真でみる最近の話題

きれいな水を守るために

上垂木区の街づくり協定

上垂木区と掛川市との間で、3月1日に「まちづくり計画協定」が締結されました。水質浄化を目的とした協定で、締結のためには世帯の8割以上の同意が必要ですが、実際には、89.4%の同意率でした。

しかも、役員の方の奮闘や住民の意識の高さもあり、ごく短期間で協定締結までこぎつけました。

これを受けて、平成19年度から「市町村設置型浄化槽整備事業」がスタートします。2月議会において予算も認められました。

今後は、新設される「まちづくり委員会」を中心に活動が展開されると思いますが、協定の目的にもあるように、河川美化や里山の保全につながるよう、期待がされます。



協定締結の様子(市役所にて)

一学年がたったの一人

学校教育特別委員会の報告

市内には23の小学校がありますが、全校児童数が100人に満たない学校が4校、また、一学年の児童数が数名しかいない学級もたくさんあり、一学年にたった一人だけという学級も、今年ついに二つ目ができてしまいました。

「過疎化や少子化による児童数減少のため、学級編成等に苦慮している学校が少なくなく、再編等も踏まえ、早急な検討が必要であること。(中略)これらのことを踏

まえ掛川市の今後の学校教育のあり方について調査・研究を行なう」ことを提案理由として、本委員会は設置されました。

これを受け、子どもたちにとって、理想的な教育を行なうための教育環境はどうあるべきか、子どもの視線に立ち、一人一人にあった教育とは何かを基本に、学校適正配置を中心議題として、協議をしてまいりました。

様々な意見があり、とても一つにはまとま

りませんでした。学校の規模においては、再編・統合も視野に入れながら、検討を進める必要があると感じている委員が多かった。全会一致ではないものもありますが、

- 1) 基本的には、一学年に複数の学級編成ができることが望ましい。
- 2) 少なくとも学校の行事が、その学校単独で行なえる規模が望ましい。
- 3) 複式学級の解消を図ること。

等を、学校規模に関する具体的な意見として、報告致しました。今後、これらを参考に教育委員会が最終判断をすることになります。

(広域行政問題、南北道・幹線道路両特別委員会の様子は次号以降で紹介します。)

駅前再開発ビル

私の一般質問の回答でも述べられましたが、市長は駅前東街区再開発について、「10階建て程度の建物、1,2階は商業施設、上部は住宅として業者が責任を持って売る。平成20年度には実施設計に入りたい。」という意向を表明しています。特定業務代行という方法を取る以外は、一旦は断念した以前の計画とあまり変わらないという印象です。

前回からの課題の、「市街地の活性化を図るためにはどうしたら良いか、駅前の形態はどうあるべきか、身の丈にあった計画にすべき」、といったことがしっかりと議論されているのでしょうか。もう一つ気になることは、まず再開発ビルありきで行政主導

で進んでいること、とにかく急いでいる、という印象が強いことです。拙速は避けなければなりません。



会議乱立

最近、庁内外に検討委員会や対策本部の類が乱立気味ではないかと感じています。戸塚市長になってから、この手法が積極的に取り入れられています。私も、重要課題に関しては、庁内横断的な総合的な検討が出来る事などから、手法そのものに反対するものではありませんが、現在は乱立気

味ではないかということです。

会議にとられる時間が増え、結果として結論が遅れる。通常業務に支障が出る。責任の所在が不明確になる、などの弊害が懸念されます。そのうえ市長はこの手法により、課題を丸投げしている感があります。会議のあり方は、議論を進める上で重要なポイントです。再点検を要望します。

2回目のトップバッター（一般質問）

（質問のねらい）

深刻な問題となっている地球温暖化。地球規模の問題であるが、解決の糸口は我々の足元にもある。掛川市としてどう対処するか、何が出来るかを質問しました。

掛川市の顔とも言える駅前東街区の再開発。市長は平成20年4月の着工を表明しているが、検討は大丈夫なのでしょうか。疑問です。



19年3月8日登壇

通算11回目の質問(2回目の一番くじ)

（通告要旨：一部省略してあります）

1. 地球温暖化防止について

- (1) 地球温暖化防止地域推進計画は、どのような内容になるのか
- (3) 有料化が有効であると思うが、レジ袋削減の取り組みをどうするか

2. 駅前東街区再開発事業について

市長の「平成19年の重点事項」によれば、「平成20年4月からの着工を目標」とある。かなり具体的になっているものと思われるが、

- (1) 着工に向けた具体的スケジュールをどう考えているか
- (2) 現時点での具体的構想はどんなものか、中心市街地活性化の構想も併せて伺う
- (4) 「特定業務代行」はどんな業者が予想されるか。また、計画に対する掛川市の財政負担はどうか

3. 天竜浜名湖鉄道について

- (1) 静岡県は天竜浜名湖鉄道へのDMVの導入を検討する方針を明らかにしたが、掛川市としてはどう対応するのか

※DMV（デュアル・モード・ビークル）鉄道・道路両用車両

（市長の答弁）

地球温暖化防止について、市長の答弁はある程度納得できるものでした。後日談ですが、レジ袋の有料化については、スーパー協会も前向きで、全国に先駆けて実施される可能性が出てきました。市民の皆さんにもご理解をいただきたいと思います。

写真でみる最近の話題（1月～3月）



出初式(1月4日) 一斉放水の水しぶき



女性会議開催(2月20日)



子どもの読書を考える会視察(2月20日)
県立図書館子ども読書研究所の巨大本



こども広場あんり竣工(3月6日) 旗のお披露目



ごみ減量大作戦パレードに参加(3月11日)



くるみ幼稚園卒園式(3月16日)
これで私も一人前?



大東図書館竣工(3月23日) 外観



4 高天神社例大祭(3月25日)の神輿渡御